

「三途の天下人」
さんず てんかびと

○登場人物

織田信長
明智光秀
豊臣秀吉
徳川家康
森蘭丸
茶々（淀君）

三途の川の畔。

舞台中央に水溜まりがある。

織田信長が、地面に寝そべりながら水たまりを眺めている。

後ろに控える森蘭丸。

信長

蘭丸、今日もなかなか下界は楽しいことになっておるぞ。

蘭丸

左様でございますか？ 上様、今日はどうのようになっておりますか？

信長

裏切り者の明智光秀が、秀吉と合戦になったわ。どっちが勝ったと思う？

蘭丸

明智光秀は、信長様を裏切った悪の権現。秀吉様に勝っていた

信長

秀吉が勝ちおったわ。

蘭丸

秀吉様は毛利攻めの最中のはず。よく間に合いましたね。

信長

あの、猿め。光秀に討ち取られた我のかわりに天下を治めるつもりだわ。農民が天下人とはこれは面白いことになってきた。

蘭丸

光秀は討たれたのですか？

信長

落ち武者狩りにあつて、竹槍で突かれて死におつた。

蘭丸

それは裏切り者らしい最後でありますな。

信長

三途の川の行列にほどなく光秀がやってくるであろうから、こ

蘭丸

つちに呼べ。なぜ、わしを裏切ったのか、きやつに聞いてみた

信長

い。

蘭丸

三途の川の見張りはそれがしにお任せあれ。

信長

わしは、天下がどうなるか見届けてから三途の川を渡りたい。

蘭丸

それまで蘭丸、生前同様、わしに仕えてくれ。

信長

蘭丸

信長

蘭丸

蘭丸
信長 御意！
しかし、この水たまりは下界の様子がよく見えて、なかなか楽しめるわい。

蘭丸、ふと前面の何かに気付き、走り去る。
蘭丸、明智光秀を連れてくる。

光秀 痛い、痛い、痛い！ 髪を引っ張るではない。
蘭丸 この森蘭丸、いつお前が三途の川を渡るのか、ずっと見張っていたのだ。この裏切り者め！

信長、起き上がった

信長 おおっ、光秀。思ったより、こっちに来るのが早かったのう。
光秀 ひっ、これは信長様！

信長 まさか、おぬしが本能寺を急襲してくるとはほんのこれっぽっちも思っていなかったが、光秀にしては思い切ったことをしよったなあ。

光秀 それは上様が、丹波の国を私から召し上げると申されたからです。
信長 領地がなければ、それがし家臣を食わせていけませんぬ。
光秀 だから、毛利攻めして、奪った領地はお前にやる、と申しただけではないか。

光秀 敵の領地を家臣に分け与えると申すのは理不尽極まりない。ええい、信長め。おぬしの首を見ながら、一杯酒でも飲んでやろうと思っておったのに、本能寺から首が出なかった。誰ぞ、首を隠したのか！

蘭丸 上様の首を取られてたまるか、とそれがしが介錯（かいしやく）したのち、側近に首を持たせ、逃がしただけのこと。

光秀 やはり、蘭丸、貴様の仕業であったか！

信長 まあ、光秀、落ち着け。もう三人とも死んでおる。おぬしに切腹申しつけないところだが、死んでしまつて腹も切れまい。

蘭丸 （光秀に）上様は、ずっとその水溜まりから、下界の様子をご覧になっていたのだ。すべてわかつておるのだぞ。

光秀 何！ あそこから下界が見えるのか？
蘭丸 試しにご覧になってみては？

光秀、水溜りをのぞきこむ、

光秀 こ、これは！

信長 わしも死に、おぬしも死んで情勢は秀吉に傾いておる。
光秀 秀吉め、上様の次男ではなく孫の三法師様を担ぎだしおった
か。

信長 上様？ わし、おぬしに上様って呼ばれる筋合いはない。
蘭丸 そうじゃ！ 上様を裏切っておいて、上様と呼ぶのはおかし
い。

光秀 それでは何とお呼びすればよろしいのか？
信長 信長様だな。

光秀 それではこれよりは、上様を信長様とお呼びいたします。
信長 秀吉も秀吉だな。わしの孫など担ぎあげて、その後見役となり
天下を牛耳（ぎゅうじ）ろうとする魂胆が見え見えだわ。あ
あ、簡単に天下取らせたくないな、あの猿には。

光秀 そうやすやすとは事は運びますまい。信長様の次男、信雄殿も
おれば、三男の信孝様もおられる。ほう、柴田勝家殿は、三男
の信孝様と手を組んで秀吉に対抗しようとしておる。

信長 わしの次男と三男でこれは戦になるであろうな。嘆（なげ）か
わしきことよ。

光秀 相続争いは、戦国の世の常にございます。

蘭丸 光秀殿はどの目線からそのようなことをしれつと申しておるの
ですか。すべては明智殿が本能寺に火をかけ、上様を殺害し
たゆえ起こっている天下騒乱なのですぞ！

信長 光秀、わしはお前に聞きたい。主君を謀反（むほん）で葬り去
り、そのあと天下を取れると思っておったのか？ おぬしの頭
なら謀反人としてわしの家臣どもが敵討（かたきう）ちに来る
ことぐらい想像できたであろう。

光秀 もちろん、想定は致しておりました。しかし、領地没収を何の
咎（とが）もない私に信長様は行いました。信長様の元において
は、いつかそれがしは殺される。それならば、いま信長様を葬
り去り、戦うしかないかと腹を決めたのです。

信長 わしをそこまで恐れていたのか。
光秀 恐れておりました。それがしは追い込まれ、100のうちの1
に運命を託すしか方法がなかったのです。
なるほど……。

光秀 口惜しや。徳川殿と長曾我部殿が味方についてくれさえすれ
ば、戦に勝つたものを……。秀吉が早すぎた。

蘭丸 徳川殿？ 徳川殿もこの裏切りに加担していたと申すか！

光秀 徳川殿は、息子の信康様を信長様に殺されております。徳川
殿はずつと信長様を討ち取る機会を待っておられたのです。

信長 これは、家康にも、話を聞かんといかんなあ……。

蘭丸

これで、また成仏の機会が遠のいた。

信長

証人として、光秀、貴様もここに残れ。

光秀

残りましようとも。それがしも家康殿にお聞きしたいことがございませぬ。

蘭丸

家康が死ぬのはいいいつのことになるうやら。何年ここで待てばよいのやら……。

信長

蘭丸、安心せえ。実はこの下界への水たまりだが、こうやって、右から左に水面（みなも）を撫でると、一年ほど時代が移り変わる。

蘭丸

そうなのですか！ なぜ上様はそれを私に黙っておられたのです？

信長

わしはじっくり下界を見たいのだが、おぬしが成仏、成仏とうるさく言うからじゃ。

蘭丸

なんと！

信長

わしが死んで天下はどうなるのか。それだけは見届けたい。

信長、水面を右から左へ撫でる。

信長

おおつ、秀吉と勝家が合戦をしておるわ。猿め、勝家まで亡きものとするつもりか。

光秀

どちらが優勢でございますか？

信長

秀吉じゃな。わしの多くの家臣は秀吉になびいておる。

光秀

猿め、百姓上がりの分際で天下を取るつもりか！

蘭丸

このような事態になったのは、すべて光秀殿が謀反など起こしたからですぞ！

信長

光秀、おぬし、切腹したことないから痛み、わからんだろ。あれは痛むぞ。内臓が全部、出ちゃうかと思っただわい。

蘭丸

腸がこっそり出ておりました。

信長

何？ 出てしまっていたか。

蘭丸

はい、見るに絶えず、すぐに介錯いたしました。

信長

もう、あれだ。あまりの痛みでわしも意識失ってたな。

信長、蘭丸、光秀をじつとみて

光秀

なんでござる？

信長・蘭丸

お前のせいだ！

光秀

裏切りは下剋上の常。それがしも竹槍に突かれ、痛い思いはしたのです。

信長

最後、落ち武者狩りの竹槍に突かれるなんて無様で笑ったわ

光秀　い。
おのれ、信長！　わしを愚弄（ぐろう）するつもりか！
光秀殿らしい最後でございますな。
光秀　おのれ、蘭丸、貴様まで！

光秀、刀を抜くが、

信長　光秀、そのようなものをこの天界で出してどうする？　霊は刀では斬れんぞ！
光秀　なんと！
蘭丸　斬れるものなら、とつくに光秀、お前を斬っておる。
光秀　蘭丸、貴様に光秀などと呼び捨てにされる筋合いはない。
信長　裏切り者が偉そうにするでない。
光秀　うむ、もつともじゃ。
……。

光秀、齒ぎしりしながら、刀を収める。

信長　ああ、そうこう話しているうちに、秀吉が柴田勝家を倒してしもうた。お市まで道連れにされた。
蘭丸　上様の妹君（いもうとぎみ）を自害に追い込むとは！
信長　勘弁ならん。

信長、蘭丸、じつと光秀を見る。

光秀　なんでござる？
信長・蘭丸　全部、お前のせいだ！
……。
信長　蘭丸、柴田勝家とお市がほどなく三途の川に来ると思うが、こちらには呼ばず、そつと成仏させてやってくれ。
蘭丸　かしこまりました。
光秀　柴田様がやられては、もう秀吉に対抗する勢力がありませんぬ。
信長　いや、まだタヌキがおる。
光秀　タヌキ？
信長　家康よ。あやつめ、世継ぎ争いにまったく無関心なフリをしておるが、ここぞというところで出てくるであろう。
蘭丸　確かに家康殿が秀吉に屈するとは思えませぬな。
信長　これは必ず合戦になる。

蘭丸 百姓上がりの秀吉が、武門一辺倒の徳川に勝てるのか、これは見物（みもの）ですな。

信長、また水溜まりを撫でる。

信長 始まったのう。

光秀 秀吉と家康の戦でございませうか。

信長 家康め、律儀にわしの三男信雄を大将にして、秀吉と対峙しておるわ。

光秀 表向きは、三男信雄様を旗印とする徳川。

信長 家康も魂胆が見え透いておるわ。あくまで織田の後継者を擁護する立場を見せて、実権は自らが握るつもりであろう。

蘭丸 猿とタヌキの合戦ですな。ここはどのあたりですか？

光秀 おそらく、小牧、長久手あたりにございませう。それがし若き頃は諸国を流浪しておりましたので地理にはくわしいのです。

信長 どちらが勝つと思おう？

蘭丸 陣容を見る限り、秀吉は8万の手勢、家康は多く見積もっても3万。兵力だけ見れば秀吉が圧倒的に有利。

信長 大義があるのは家康のほうじゃ。わしの息子を立てておる。しかし、どちらも動かん。

光秀 待っているのはございませぬか？

信長 待っている？

光秀 秀吉がこの戦に勝った後、実権を握るのは必定。これに反対する織田旧臣の勢力が挙兵するのを待っておるのでは？

信長、水溜りを撫でる。

信長 ほう、光秀、貴様の見立ては悪くない。一年経っても、まだ両軍対峙しておるわ。家康は、時間を稼いで風が吹くのを待っておる。

蘭丸 家康殿は合戦上手。猿ごときに負けはしますまい。

信長 次に三途の川に来るのは、秀吉か、それとも家康か……。

蘭丸 あっ、和解した！

信長 あの、馬鹿息子。秀吉と和解してどうする？ これでは、秀吉の天下になるではないか。

蘭丸 ああ、家康殿もため息をついておられる。大将に担ぎ上げた織田信雄様が、秀吉と和解してしまっは、家康殿の大義名分が

なくなる。これは兵を引くしかありませんな。

信長 秀吉め。これで織田は滅びるのか……。

光秀

信長

光秀

信長

光秀

信長

蘭丸

信長

蘭丸

信長

光秀

蘭丸

光秀

信長

蘭丸

信長

光秀

信長

光秀

信長

光秀

信長

……。

光秀、お前、いま笑っただろ？

笑っておりませぬ！

いや、笑った。織田が滅びると知って、心の内でほくそ笑んでいるのである。

それがしが謀反を起こしたのは、織田信長を亡きものとするため。織田の一族がどうなろうとそれがしの知ったことではござりませぬ。

信雄も阿呆じゃのう。一度、秀吉に反旗を翻（ひるがえし）ておいて、秀吉と和解。のちのちどんな扱いをされるかわかったものではない。どうやら織田の一族の中で、秀吉に対抗できるものはおらぬらしい。力あるものがのし上がっていく。それが戦国じゃのう。

信長様あつての織田家でござった。

その織田家を潰したのが……。

明智光秀。

もう少しで天下統一だったのに、やってくれたわ、なあ、光秀。

もう少しというのは気になりますなあ。中国の毛利、四国の長曾我部、九州の島津、関東の北条、越後の上杉、奥羽の伊達、まだまだ倒さなければならぬ相手が多くありました。

何を言うか。信長様の勢いなれば、すべて打ち倒すことが出来たわ。

信長様は死んだのです。今更、このような話をして意味もありません。

おお、秀吉め、四国、九州を制圧して、太政大臣（だじょうだいじん）になりおったわ。百姓が貴族の仲間入りだわ。あやつもなかなかやりおるわ。

信長様の家臣は、こぞつて秀吉についたというわけですな。

家康が、戦をやめてしまったからのう。おお、朝廷から豊臣の姓を賜ったか。

豊臣秀吉……。

光秀、お前が誕生させたようなものじゃ。競争相手だった秀吉の立身出世ぶりを見て、どう思う？

……。

悔しいか？

いえ。

悔しくないと申すか？

光秀
それがしは天下など望んでいなかったのです。領土の安堵と家臣たちを守ればそれで良かったのです。それを許さなかったゆえ私は信長様に謀反をおこしたのです。
無欲なことよのう。そういう飄々としたところが、わしは気に食わん。

信長
何とでも申されよ。

光秀
つまらん、つまらん、つまらん！

信長
……。

光秀
おつ、秀吉は姪っ子の茶々を側室にしおったわ。あやつめ、お市を自害に追い込んでおきながら、その娘を側室にするとは何を考えておるのじゃ！

蘭丸
秀吉のお市様への片思い、その娘を側室とすることで叶えたのでしょう。

光秀
茶々様の思い、複雑でしょうなあ。秀吉は、母を自害に追い込んだ男、そのような恨みある男の側室になれるとは……。

信長
茶々はまだ19歳じゃぞ。秀吉は50歳。あのくそ猿め。光

蘭丸
秀、お前のせいだ！

光秀
そうじゃ、光秀のせいじゃ。お前が謀反など起こさなければこのようなことにはならなかった。

信長
すべてそれがしの責任にされても困ります。

蘭丸
秀吉め、三途の川で待つておるぞ。ただでは済まさん。蘭丸、

蘭丸
この水溜まり、見飽きたわ。おぬしが撫でて情勢を伝えよ。はっ！

信長、水溜まりの前から去る。

蘭丸、水溜まりの前に座ると、水面を撫でる。

蘭丸
上様、秀吉の北条攻めが始まりました。奥羽の伊達も豊臣勢に加わっております。

信長
伊達も秀吉に付き従ったか。これで北条が降伏すれば、天下統一か……百姓から天下人までのし上がるとは、わしの想像以上の働きぶりじゃ。

蘭丸
秀吉殿の軍勢20万、北条勢およそ5万。

光秀
難攻不落の小田原城をどう開城させるのか見物（みもの）ですな。

信長
力攻めで落ちる城ではないわ。

光秀
他勢力の援軍も望めず、4倍の兵に囲まれておれば、北条方から離反するものが出てくるでしょう。そのうち士気も落ち、開城となりましょう。

蘭丸、水溜りの水面を撫でる。

蘭丸 光秀、そなたの言うとおりになりましたな。上様、秀吉、北条を倒して天下統一でござる。

信長 そうか。できるなら、わしが統一したかったが、猿がやりおつたか……。

光秀 あの戦乱の世を終わらせるとは敵ながらあっぱれ。

蘭丸、水溜りの水面を撫でる。

蘭丸 上様、驚きでございます。秀吉は明の征服に乗り出しました。

信長、急いで水溜まりの場所に戻ってきて、

信長 明じゃと！ あやつめ、海を渡るか。

光秀 これは魂胆が秀吉にありますな。

蘭丸 魂胆とは何でござるか？

光秀 戦乱が終われば、武士の刀は用済みでござる。戦馬鹿（いくさばか）の覇気のはけ口として明に攻め入ったのでしよう。

蘭丸 なるほど。明に攻め入れれば、諸侯は武器や金を使う。国内で暴れ出すのを止めようというわけですな。

光秀 徳川などは、疲弊させられてはたまらぬ、と明出兵を渋っております。

信長 明を征服できるか見たくなってきた。

信長、水溜りの水面を撫でる。

光秀 これは！

蘭丸 惨敗ですな。

信長 やはり明は強いか。

蘭丸 上様、見てください。明出兵の失敗のショックで秀吉は、尿を漏らしております。

信長 この様子では長くないのう。

蘭丸 どういたしましょうか？

信長 蘭丸、秀吉が三途の川に来たら、ここへ呼べ。あやつには文句の一つ、二つ、言っておきたい。

蘭丸 はっ！ さっそく迎えに行きます。

信長 うむ。

蘭丸、立ち去る。
蘭丸、豊臣秀吉を連れてくる。

秀吉 なんじゃ、なんじゃ。おぬし蘭丸ではないか。

蘭丸 上様が、お話しがあるとのことです。

秀吉 上様!? 信長様が待つておるのか。

蘭丸 左様でございます。ちなみに明智殿もおられます。

秀吉 いや、上様に合わせる顔はない。三途の川を渡らしてくれ。

蘭丸 秀吉様、ここには不思議な水溜まりがありましてな、下界の様

子がよく見えるのです。秀吉様亡き後、天下がどうなるか見て

いきたくありませんか?

秀吉 なんと、そのような水溜まりがあるのか。それはぜひとも見て

おきたい。

信長 秀吉、久しぶりじゃのう。

秀吉 こ、これは上様!

信長 天下を統一し、太閤(たいこう)まで名乗り偉くなったのう。

秀吉 ここまで来れたのは誰のおかげじゃ。

信長 上様のおかげにございます!

秀吉 さすがにわしの前ではふんぞり返ることもできぬか。

信長 まさか、天界で上様にお会いできるとは夢にも及ばなんだ。

秀吉 お市、茶々の件でおぬしには話があつてのう。ずっと待つてお

つたのだ。なぜわが妹を自害に追い込んだ?

秀吉 お許しくださいませ。お市様は敵方におられましたので、自害

を止めることかなわず……。

信長 たわけ者め! そちのお得意の策略を持つてして、城から逃が

すこと、出来たはずじゃ!

秀吉 策は講じたのです。しかし、お市様は城を出るとは申さなかつ

たのです。

信長 おぬしの側室にされるのが嫌だったのであろう。

秀吉 それもあつたと存じます。

信長 で、お市の娘の茶々を側室にしたのか。蘭丸、刀、貸せ。

蘭丸 はっ!

蘭丸、刀を差し出す。

信長、秀吉を斬る。

秀吉

ぎゃっ!

秀吉、倒れこむ。

信長
秀吉
信長
秀吉
信長

立て、秀吉。天界で刀など用を為(な)さぬ。
(立ち上がって)おつ、あらつ、斬れてない。
そういうことじゃ。

びっくりいたしました。
何がびっくりじゃ。びっくりさせられたのはわしのほうだわ
い。茶々19歳、おぬしは50歳。茶々が可哀そうではない
か！茶々は母のお市をおぬしに殺されているのだぞ。茶々の
の心中(しんちゅう)を思うと、この信長も目がうるおって
るわい。

秀吉
信長
秀吉

申し訳ございませぬ！お市様への思い、この秀吉、生涯忘れ
ることが出来ず、お市様の娘の茶々に想いを募らせたのです。
この馬鹿者めが！！
申し訳ございませぬ！

蘭丸、水溜りの水面を撫でる。

蘭丸
光秀
秀吉

何やら、豊臣の家臣同士で大戦(おおいくさ)になっておりま
すぞ。
この地形を見る限り、ここは関ヶ原辺りであろう。
なんじゃ、何の戦が始まったのじゃ！

秀吉、水溜りをのぞきこむ。

秀吉
蘭丸
光秀
秀吉
光秀
秀吉
光秀
秀吉
信長
秀吉
光秀

光成か、石田三成と……相手は徳川家康！家臣同士で戦を始
めるとはどういうことじゃ！
おそらく、家康殿は、反対派を駆逐して実権を握るおつもりで
すな。上様がなくなったときと変わらず、家督争いでござる。
力あるものがのしあがっていく。秀吉殿がなされたのと同じこ
とを家康がしておるのです。
そういうおぬしは、明智殿ではないか。久しいのう。
山崎の合戦では完敗でござった。
なぜ、上様を裏切った？
その話はもうやめておきましょう。昔のこととござる。
まさか、わしも天下人になるとは思ってもおらんのだ。
百姓上りが太閤など名乗りおつて。
申し訳ござりませぬ。
じきに豊臣も滅びますな。いま、力あるものは徳川家康でござ
る。秀吉殿の嫡男、秀頼殿はまだ7歳。家康に太刀打ちなどで
きるはずもございませぬ。

秀吉 家康殿には、秀頼のことは頼むと強く伝えてから死の床についた。

光秀 そのような口約束が通らぬこと、秀吉殿はよくお分かりになっているはず。この戦、家康殿が勝てば、実権は家康殿が握ることになりましょう。

秀吉 五大老、五奉行制で政（まつりごと）を行なえば盤石かと思っただが、やはり家康は消しておくべきであった……。

蘭丸 どうやら、この戦、家康殿が勝ちましたな。

光秀 これで政（まつりごと）の実権は家康殿が握りましたな。お

お、あれよこれよと言う間に徳川殿は幕府を作りましたな。お豊臣完全無視でござる。

秀吉 ぐぬぬぬぬ。あやつめ、勝手なことをやりおって。

信長 蘭丸、水面を撫でよ。

蘭丸 はっ！

蘭丸、水溜りの水面を撫でる。

秀吉 なんと！！ 大坂城が燃えておる。

光秀 茶々様も息子の秀頼様も自害の様子ですな。

秀吉 おのれ、徳川家康！

信長 下剋上じゃのう。茶々が自害とは……。

秀吉、大声で泣き始める。

秀吉 家康め、ただでは済まさんぞ。上様、それがし、家康がここに来るのを待ちとうございます。

信長 勝手にいたせ。

秀吉 はっ！

蘭丸、ほどなく茶々が来るであろうから、三途の川を渡る前に連れて参れ。

信長 はっ、ではそれがし、お迎えに参りまする。

蘭丸 うむ。

蘭丸、走り去る。

秀吉 それにしても、裏切り者の光秀がなぜ上様とここにおるのじや？

光秀 本能寺の変について、信長殿が徳川殿にも話を聞きたいと申されて、それがしにも残るように言われたのです。

信長 秀吉、わしの見立てではのう、本能寺の変は徳川も一枚噛んでおる。

蘭丸、茶々を連れて戻ってくる。

茶々 叔父上様！

茶々、信長に抱き着く。

信長 おうおう、茶々、久しぶりじゃのう。立派な女子（おなご）になったのう。

茶々 叔父上様、お会いしようございました。

秀吉 茶々、わしじゃ、秀吉じゃ！

秀吉、茶々に抱き着こうとするが、茶々は拒む。

茶々 殿下は、父と母の敵（かたき）でございます。
今さら！？

茶々 加えて加齢臭。口の臭さ、息の臭さ。すべてが嫌でございます

信長 そうじゃそうじゃ、50超えてから若いそなたを側室にするとは、最低な男だとわしも思っておったのだ。

秀吉 今さら！？ 子供もいたのに今さら！？

茶々 叔父上、茶々は秀吉が大嫌いでございます

信長 そうじゃろう、そうじゃろう。猿と美女では似合うはずもない。わしが生きておればのう、このようなことにはさせなかつたのだが。

秀吉 茶々がわしのことが嫌いだったなんて！

茶々 天下人ゆえ、怖くて言えなかつたのです。

蘭丸 天下人になった猿を拒めばどのようなことになるかわかりませ

茶々 からの。茶々様もよく我慢なさいましたな。

二人の妹にも危害が及ばぬようにと、私は自分を殺したのでござ

茶々 います。

秀吉 えっ、茶々はわしといて死んでいたのか？

茶々 ええ、生き抜くために、皆のために自分を殺してあなた様と

秀吉 ともに暮らしたのです。

茶々、悲しいことを言わんでくれ。わしはおぬしのために城ま

茶々 で築いたではないか。

あのような城、必要ありません。

茶々

秀吉 なんと!?
茶々 子を産むためなら、大坂城で十分でございます。
秀吉 光秀、だめじゃ、わしは立ち直れぬ。

秀吉、光秀によりかかる。

光秀 おのれの身分をわきまえぬゆえ、このようなことになるので
す。

秀吉 わしは天下人じゃぞ。

光秀 人の愛は金(きん)では買えぬということですよ。

秀吉 がっくりじゃ。しばらく立ち直れぬ。

茶々 最後は尿まで垂れ流すようになり、臭くて近寄れませなんだ。
秀吉 もう、茶々、そのあたりで勘弁してくれい。

茶々 死んでやっとな音を言うことが出来ました。つかえていた何か
がすつきりいたしました。

秀吉 光秀、わし、切腹したい。

光秀 無理でございます。死者に刀は通じませぬゆえ。

秀吉 早く三途の川を渡りたいが、家康も勘弁ならぬゆえ、文句の一
つも言わなければ成仏できぬ。

茶々 わらわも、家康には息子ともども自害に追い込まれましたゆ
え家康につばの一つも吐きかけとうございます。

光秀 それでは皆で家康殿を待つことといたしましたしよ。

蘭丸、水溜りの水面を撫でる。

蘭丸 上様、徳川家康殿、鯛の天ぷらにあたって、身まかりました。
信長 鯛の天ぷら?

光秀 天下人にしてはあつけない最後。

秀吉 さまあじゃな。くっ、くっ、くっ(笑う)。

蘭丸 家康殿もほどなくこちらに参るでしょう。

信長 光秀、秀吉、蘭丸、家康を見つけ次第、こちらに連れて参れ。

光秀・蘭丸 はっ!

茶々 家康め、あらぬ嫌疑をかけてわらわと秀頼を自害させたこと、
叔父の前で釈明させます。

皆で四方八方を見て、家康を探している。

蘭丸 あっ、あれではございませぬか?
秀吉 あれじゃな。あのタヌキ面は死んでも忘れておらぬ。

信長
蘭丸、連れて参れ。
はっ！

蘭丸、立ち去る。

光秀 本能寺の一件、問い詰めねばならぬ。
秀吉 本能寺の一件とは？
光秀 徳川殿は、わしが本能寺で信長様を討ち取ったのち、長曾我部
などとともにわしに味方する密約があったのです。
秀吉 なんと！？
信長 家康め、食えぬやつとは思っていたが、そういうことであつた
か。
茶々 それでは家康は本能寺では信長様と明智殿を裏切り、大坂の陣
では秀吉様とわらわたちを裏切ったということになります。
光秀 と、いうことは、家康はここにいる全員を裏切っております
な。
信長 あのタヌキめ！ ただでは済まさぬ！

蘭丸、家康を連れてくる。

家康 なんじゃ、なんじゃ。もうわしは疲れた。三途の川を渡らして
くれ。

その前に、上様に会っていただきます。
上様？

信長様にございます！

信長様はとつくに三途の川を渡っておるであろう。

いえ、皆で徳川様が来るのを待っております。

家康殿、おひさしぶりにございます。

その声は光秀！

徳川殿、偉くなられましたなあ……。

その声は太閤殿下！

家康、わしじゃ！

の、信長様！

家康殿、大坂の陣ではお世話になりましたね。

こ、これは茶々様まで！ わしは夢を見ておるのか？

夢ではないわ。ここは三途の川の畔じゃ。みな、おぬしを待つ

て川を渡らずに待っておったのだ。

そうでございますか。しかし、それがし、何も申し上げること

はござりませぬゆえ、先に三途の川を渡ります。それではご

家康

信長

家康

茶々

家康

信長

家康

秀吉

家康

光秀

蘭丸

家康

蘭丸

家康

蘭丸

家康

めん！

家康、立ち去ろうとするが、秀吉と光秀が捕まえて、強引に座らせる。

光秀 征夷大將軍となり幕府まで開いて偉くなりましたなあ……。

家康 違う、光秀、あれは違うのじゃ！

光秀 何が違うのです。本能寺の後、我にお味方してくれるお約束、いかがでしたのです。信長様も知っておりますぞ。

家康 ……だから、いろいろ違うのじゃ！

信長 家康、隠し立てしても無駄じゃ、話は聞いておるゆえ。

光秀 それがしは信長様を裏切っておりますせぬ。この光秀がしつこく本能寺のあとには味方せよと申すので、そのようなことが本当に起こるなら考えましよう、と返したのです。

光秀 嘘をつくでない！「いま、本能寺を襲えば信長は確実に討ち

取れる。信長を討ち取った暁（あかつき）には、お味方いたす」との書状があつたではないか！

家康 そのような書状、出しておらぬわ！

光秀 証拠はここにございます。

光秀、懐から書状を出して信長に見せる。

信長

確かに味方すると書いてある。

家康

その書状は偽物じゃ。だいいち、なぜ三途の川まで書状を持ってくるのじゃ！

光秀

家康殿に裏切られた怨念を抱いて身まかったからでございますよう。竹槍で討たれる間際までこの書状はそれがしが懐に持つておつたのです。

信長

家康、光秀に味方すると申してわしを討たせ、その光秀も裏切つて天下騒乱を起こし、自身は頃合いを見計らつて天下を狙つた。そうであるな？

家康 違います。違う、違う、そうじゃ、そうじゃない。

信長 家康、そこまでわしが憎かったか！

家康

憎んでおりませぬ。これは何かの間違いでございます。

信長

家康、わしはおぬしと何度も書状のやりとりをしておる。この書状、間違いなくおぬしの筆跡じゃ。

家康

どうして死んでまで本能寺の責めを受けねばならぬのか。

信長

この裏切り者め。

茶々

そうじゃ、この裏切り者め！ 豊臣を守ると申しておきながら

家康
秀吉
茶々

家康

秀吉

家康

茶々

信長

家康

秀吉

家康
信長

あらぬ嫌疑をわらわたちにかけて、大坂城を攻めた！
なんと茶々様までおられるとは……。

茶々、あらぬ嫌疑とはなんじゃ？

秀頼が方広寺を建てなおした際、寺の鐘に「国家安康」と彫らせたのですが、家と康の字を分断し、徳川を呪っていると難くせをつけてきたのでございます。

……。

家康殿、それは真（まこと）か？

はて？ そんなことがありましたかな。

わらわが言っているのですから間違いありません。それを口実にして、徳川は豊臣に戦を仕掛けてきたのです。

家康、真（まこと）のことを申せ。おかしな言いがかりを豊臣につけたであろう！

言いがかりでござる！

では、なぜ、豊臣攻めなど出来たのじゃ。理由がなければ、主家に引くことなどできぬではないか！

はて、何が何やらわかりませんなあ……。

どうしてもしらを切ると言うのなら、ここで成敗してくれる。

信長、刀を抜く。

家康

信長

家康

信長

お待ちください、上様！
おぬしを天国に旅立たせるなど、仏が許してもわしが許さん！
やりました、やりました。言いがかりをつけました！
わしの姪の茶々をいじめおって。許さん、地獄へ落ちろ！

信長、家康を斬る。

家康

秀吉

信長

家康

信長

家康

信長

蘭丸

秀吉

ぎゃっ！

……わしのとときと同じやり方。

家康、安心せえ。

あらっ、おっ、斬れてない。

わしらはもう霊になっておるゆえ、刀など何の役にも立たんだ。

先に言ってください。

言いがかりをつけた罰じゃ。

それにしても、ひどい言いがかりですな。そんなことで主家の豊臣家を攻めるとは……。

家康殿、豊臣を頼むとわしはおぬしに申したではないか。

家康

太閤殿下亡きあと、五大老五奉行制ではもろもろ立ち行かぬゆえ、それがしが実権を握ったのでござる。その甲斐あって、今は戦のない平穩無事な国が出来上がったのです。

秀吉

裏切り者が偉そうなことを言うでないわ。おぬしがしっかりと秀頼を支えてくれれば、豊臣が天下を収めること可能であったわい。

家康

太閤殿下、恐れながら、国家安泰のためには、豊臣と徳川が双方並び立っては無理だったのです。

秀吉

やはり、おぬしは殺しておくべきであった。きつところなるだろうと恐れていたのじゃ……。

家康

わしの命が狙われていることなど、とうにわかっておりました。それがしはそれをなんとか交わし耐えに耐え、天下を取ったのでござる。

光秀

しかしな、家康殿、天下を取ったと思っても時が過ぎればまた違う者が天下を収めている。その水溜まりを撫でてみよ。徳川は滅んでおるかもしれん。

家康

家康、水溜りの水面を撫でる。

家康

二代目の秀忠が幕府を支えております。もっと撫でて見よ。

蘭丸

家康、水面を撫でる。

家康

三代目の家光が幕府を支えております。あれっ、これ、ずっと徳川が治めてゆくのかな？

蘭丸

蘭丸、何回も水面を撫でる。

蘭丸

信長様、どうやら長きに渡り、徳川が天下を治め、戦がなくなっております。

信長

さようか……。我らが戦い抜いたのち、戦国は終わり、平穩な日々が民百姓に参っているのだな。

蘭丸

そのように見受けられますが……。

秀吉

天下泰平の世が参ったと申すか？

蘭丸

いくら水面を撫ぜましても、徳川が天下を治めております。悔しいかな。わらわと秀頼は自害に追い込まれ、徳川が天下泰

茶々

平を成し遂げるとは……。

家康 無数の屍（しかばね）の上に立てた天下泰平でござる。

信長 どうするかのおう。許すも許さないも、下界は変わらん。

光秀 それがしは、そろそろ三途を渡らせていただく。言いたいことは信長殿と家康に言え申した。

秀吉 茶々よ、もうこれ以上、ここにおっても意味はない。わしらも行くか？

茶々 家康殿、三途を渡りましても、わらわと息子を自害に追い込んだ恨み、忘れませぬからな。

家康 あいわかり申した。

光秀 では信長殿、それがし参りまする。

信長 うむ。

光秀、去る。

秀吉 では、上様、それがしどもも参ります。

茶々 茶々は叔父上と参ります。

秀吉 今さら!?

茶々 叔父上、さあ、参りましょう。

信長、茶々に連れられて去る。

秀吉 蘭丸、おぬしはどうするのじゃ。

蘭丸 それがし、もう少し、この水溜まりから下界を眺めようございませす。

秀吉 さようか。それならば、わしは行かせてもらおう。三途の川のあちら側でまた会うこともあるう。さらばじゃ。

秀吉、去る。

家康 蘭丸、最後の最後でとんでもない目に合ったわ。まさか信長様、太閤殿下が待っているとは夢にも思わなんだ。

蘭丸 天下人をあれだけ裏切れれば地獄行きかもしれませぬぞ。

家康 それもよからう。生きてるときも地獄であった。安らかに眠りたいがの。さらばじゃ。

家康、去る。

蘭丸、ものすごい勢いで何度も水溜りを撫で、

蘭丸

スマホ！ なんだこれは？

(幕)